関連資料E 基準3に係る関連資料

| No. | 資料名 | ページ |
|-----|-----------------------------------|-----|
| 01 | アカデミックスキルズ 全体 完成稿 | 57 |
| 02 | 実験・実習安全の手引 | 85 |
| 03 | 新型コロナウイルス感染症に対応したメディアを利用して行う授業におけ | 113 |
| 04 | コロナ禍における実習・実験の実施について | 119 |
| 05 | 遠隔授業マニュアル | 123 |
| 06 | 令和2年度総合実習 学生による授業評価アンケート | 193 |
| 07 | 教員紹介パンフレット | 195 |
| 08 | プロジェクト研究に関する履修ガイド | 219 |
| 09 | プロジェクト研究ルーブリック評価 | 223 |
| 10 | プロジェクト研究勧めたいテーマ | 225 |
| 11 | プロジェクト研究指導教員一覧表 | 233 |

ファイルサイズが大きく、ダウンロードファイルとして適さないことから公表資料から省略する。

「新型コロナウィルス感染症に対応したメディアを利用して行う授業」に関するガイドライン(案)

農林環境専門職大学 令和3年2月17日現在

1 目的

大学における授業に関する法令上の規定に従い、「新型コロナウィルス感染症に対応した、メディアを利用して行う授業」に関する本学のガイドラインを定める。

2 授業の実施方法

対面授業が困難な場合は、下記の手法のいずれかまたは双方を利用して実施する。 【同時双方向型】

Teams、Zoom 等を用いて、<u>当該授業の時間帯にリアルタイムで配信する授業。同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所において履修させるもの。</u>

【オンデマンド型】

メディアを利用して講義内容を教授し、学生の理解度を把握したり、学生からの意見や質問に応対することで、十分な指導を併せ行う授業。<u>当該授業の時間帯での学習が望まれるが、限定はしない</u>。毎回の授業の実施に当たって、当該授業を行う教員が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの。

すなわち、いずれの手法とも、

担当教員から学生に教材や課題の提示がある。

学生からの課題提出の機会、および提出課題に対する担当教員からのフィードバックがある。 学生の意見交換や質問の機会が確保されている。

以上の3要件を満たしていれば、教室授業(面接授業)に相当する教育効果が担保されると考えられる。

3 授業形態ごとの取り組み方

【講義】

対面授業が困難な場合、Teams、Zoom 等を用いて、<u>当該授業の時間帯</u>にリアルタイムで配信し、同時双方向型の授業を優先して実施する。しかし、該当する全学生の Web 環境が整っていない場合は不公平となるため、オンデマンド方式を活用する。媒体は PowerPoint、動画等を利用するが、一方方向とならないよう、学生の理解度を把握したり、学生からの意見や質問に応対することで、十分な指導を併せ行う授業とする。教室以外の他の学内施設で学生が利用できることも考慮する。前述の3要件を満たしていることを前提に、教員は各自工夫して取り組む。遂行上の問題等が生じた場合は<u>教務委員会</u>で協議し、その指示に従う。

本大学作成の「遠隔授業マニュアル」を参照。

【実習·演習】

対面授業が困難な場合、学内実習・演習については可能な限り動画や静止画等を駆使し、オンデマンド形式を主体とする授業を行う。他の授業との重複を避けるため、原則的に当該授業の時間割時に視聴させることとするが、限定はしない。視聴後速やかに学生の理解度を把握したり、学生からの意見や質問

に応対することで、十分な指導を併せ行う授業とする。遂行上の問題等が生じた場合は<u>実習圃場委員</u>会または教務委員会で協議し、その指示に従う。

本大学作成の「遠隔授業マニュアル」、「動画作成方法」を参照。

【臨地実務実習】

本大学の臨地実務実習先は個の経営体を想定しており、臨地実務実習要領に基づき、受け入れ先と十分な理解を得て実施することになる。このため、受け入れ拒否は想定しに〈いと思われるが、コロナ対策を万全に期すとともに、事前打ち合わせにおいて受け入れ先から十分に理解を得て実施する。学生についてもコロナ対策を十分に周知させる(臨地実務実習のコロナ対策について(仮)別紙)。

事前協議が成立せず、当該履修時期に受け入れが困難な学生が出た場合、臨地実務実習委員会における協議を経て、他の時期の休日等を利用するなどで実習時期をフレキシブルに対応することも可能とする。さらに困難な場合は、学内圃場等による代替実習も可能とするが、本来の実習先の経営概要の調査や撮影動画等を視聴させるなどして大規模経営を想定した実習となるよう配慮する。実習途中での問題の浮上等、個別案件が十分想定されるため、遂行上の問題等が生じた場合はその都度、<u>臨地実</u>務実習委員会で協議し、その指示に従う。

本大学作成の「遠隔授業マニュアル」、「動画作成方法」を参照。

4 教育効果の担保について

<教育効果が担保できない事例×>

昨年度、撮影した自身の授業の映像を配信した。それをもって授業 1 回分とする。 × (メディアを利用した講義内容の教授だけでなく、その後、学生の意見・質問・コメントなどに対応できるようにする必要がある)

<教育効果を担保できる事例〇>

YouTube 動画を見てもらい、あらかじめオンライン上にアップロードしておいた、自分で授業中に行っているのと同じ内容の解説を読んでもらう。学生には演習課題をやってもらい返信させる。対応に困る質問やコメントがあったら対応する。

(このケースは「オンデマンド型」に該当する。授業担当者が、学生に授業の目標や学ぶべき事項、課題を提示して学習させるのであれば、他人が作成した教材を用いても問題ない。ただし、面接授業に相当する教育効果を有することを前提とする)

5 参考資料(いずれも共有フォルダ内)

(1)遠隔授業マニュアルを参照

共有フォルダ(¥ファイルサーバー¥教職員共有用¥令和2年度¥遠隔授業)

- 1) 授業の教材資料を送付して、自習してもらう。
- 2) 授業の教材資料に音声の説明を付けて視聴してもらう。
- 3) 録画された通常の授業を視聴してもらう。
- 4) オンラインでリアルタイムの授業を受けてもらう。
- (2)動画作成方法を参照

共有フォルダ(¥ファイルサーバー¥教職員共有用¥令和2年度¥遠隔授業¥動画作成方法)

(3)コロナ禍における実習・実験の実施について(他大学における実習・実験の取組事例)を参照 共有フォルダ(¥ファイルサーバー¥教職員共有用¥令和2年度¥遠隔授業)

大学における授業に関する法令上の規定

大学設置基準(昭和 31 年 10 月 22 日)

第二十五条

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところ【 】により、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 【 】平成 13 年3月30日文部科学省告示第51号「メディアを利用して行う授業」について
- 通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において面接授業に相当する教育効果を有すると認められるもの。
- 1.同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所において履修させるもの
- 2.毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員もしくは指導補助者が当該授業の終了後速やかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの

第三十二条

5 前四項又は第四十二条の十二の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第二十五条 第二項の授業の方法により<u>修得する単位数は六十単位を超えな</u>いものとする。

短期大学設置基準

第二十五条

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 短期大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第十八条

3 前二項又は第三十五条の十第一項若しくは第二項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第十一条第二項の授業の方法により修得する単位数は、修業年限が二年の短期大学にあっては三十単位、修業年限が三年の短期大学にあっては四十六(次条の規定により卒業の要件として六十二単位以上を修得することとする短期大学にあっては三十単位)を超えないものとする。

第十九条

3 夜間において授業を行う学科その他授業を行う時間について教育上特別の配慮を必要とする学科 (以下「夜間学科等」という。)に係る修業年限が三年の短期大学の卒業の要件は、前条第二項の規定 にかかわらず、短期大学に三年以上在学し、六十二単位以上を修得することとすることができる。

大学における授業に関する法令上の規定

令和2年度における大学等の授業の開始等について(令和2年3月24日高等教育局長通知)

大学設置基準第32条第5項等の規定により、卒業の要件として修得すべき単位のうち、遠隔授業の方法により修得できる単位数については、大学院及び通信制の大学を除き、60単位(修業年限が2年の短期大学にあっては30単位、修業年限3年の短期大学にあっては46単位、中略)を超えないものとして上限が設定されているところ、面接授業の一部を遠隔授業によって実施する場合であって、授業全体の実施方法として、主として面接授業を実施するものであり、面接授業により得られる教育効果を有すると各大学等の判断において認められるものについては、上記上限の算定に含める必要はないこと。

大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて(令和2年6月5日高等教育局長通知)

本来授業計画において面接授業の実施を予定していた授業科目に係る授業の全部又は一部を面接授業により予定通り実施することが困難な場合において、(中略) 大学設置基準第 25 条第1項は、主に教室等において対面で授業を行うことを想定しているが、今回の特例措置として、面接授業に相当する教育効果を有すると大学が認めるものについては、面接授業に限らず、自宅における遠隔授業や授業中に課すものに相当する課題研究等(以下、「遠隔授業等」という。)を行うなど、弾力的な運用を行うことも認められること。(中略) 上記特例的な措置として認められる遠隔授業等は、同条第2項の規定による遠隔授業ではなく、同令第 32 条第5項の規定は適用されないことから、同規定の 60 単位の上限に算入する必要はないこと。

本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について(令和2年7月27日高等教育局大学振興課事務連絡)

新型コロナウイルス感染症への対応のため、<u>次年度の遠隔授業の実施についても、引き続き、60単位の上限への算入は不要とする特例措置を講ずること</u>

大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について (令和2年9月15日高等教育局長通知)

7月事務連絡等においてお示ししている特例的な措置として認められる遠隔授業は、<u>十分な感染対策</u> <u>を講じたとしても面接授業を実施することが困難である場合に限り実施可能</u>であること。

大学等における新型コロナウイルス感染症の徹底と学生の学修機会の確保について(令和2年 12 月 23 日高等教育局長通知)

6月通知、7月事務連絡、9月通知等、累次にわたってお示ししている遠隔授業等の実施に関する特例的な措置は、新型コロナウイルス感染症への対応として、以下の事項を踏まえたうえで、大学設置基準第25条第1項に規定する面接授業の特例として弾力的な運用が認められるものであることから、各大学等におかれては、本特例の適用に当たっては、改めて、以下に掲げる事項に御留意〈ださい。

・遠隔授業等の実施に関する特例的な措置として認められる遠隔授業等は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本来授業計画において面接授業の実施を予定していた授業科目に係る授業を予定通り実施することが困難な場合であって、十分な感染症対策を講じたとしても面接授業を実施することが困難である場合に限り実施可能であること。

·遠隔授業は、同時かつ双方向に行われるものや、毎回の授業の実施に当たって当該授業の終了後す みやかに指導を併せ行うもので、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの など、いわゆる同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められるものであること。

1 文部科学省への照会結果

第12回評議会での協議を受け、文部科学省に対し以下のとおり確認。

< 照会 >

令和2年6月5日付け「ガイドライン」では、「実技・実習の取扱い」について、「面接授業に相当する教育効果を有する遠隔授業により代替しつつ、各大学等において面接授業が不可欠と判断するものについては、後期・次年度以降に実施するなど実施時期の後ろ倒しにより対応することが考えられる。」とされている。

本学でもこの趣旨にそって検討するものの、臨地実務実習において、受入れ先企業から受入れ を拒否される等により企業等での実習ができないケースが発生した場合には、学内実習又は遠隔 授業により対応することを大学において判断したいと考えるがよろしいか。

< 回答 >

大学において判断する。

2 他大学における実習・実験の実施状況

< 可能な限り対面で実施 >

年間計画(時間割)を組みなおし、前期予定の実験・実習で、後期に移設できるものは移設するなどして時期をずらして実施。

必要最小限の実験実習を実施可として対応。

複数の教室をオンラインでつなぎ、教室内の学生数を制限して実習を実施。

受講者をグループ分けし、45分で入れ替えて作業と講義を実施。

受講者を少人数単位にグループ分けし、同じ内容の実習を複数回行うことにより 3 密を避けて 実施。

プログラム内容を大幅に見直し、密になるような実習はやめ、屋外だけで成り立つ実習に組み直して実施。

午前中は遠隔授業で講義を行い、午後にコロナ対策をしながら対面で実習を実施。

< オンラインと対面を併用して実施>

- ・実習の予習と復習にはオンラインを使い、現場での実習をメインに開催。
- ・宿泊実習を見直し、かなり内容を圧縮しての対面日帰り実習を複数日設ける形で対応。事前に オンラインで説明動画を視聴させ、当日はできるだけ作業に時間を割いた。

また、例年行っているデータの解析や討論は、帰宅後にオンラインで実施。

・学生に対し、対面かオンラインでの参加かについて希望調査し、対面を希望した学生を実習場所の許容人数内に収めるためにグループ分け。通常の内容のうち、事前の説明などは全てビデオを作成し事前視聴させることにより、対面での実習時間を削減。これにより、時間をずらしてグループ分けした学生に実習を実施。オンラインで参加の学生には、対面の実習の様子をリアルタイムで配信し、質問やディスカッションに参加してもらう。ブレイクアウトルームを用いて小グループでの意見交換、発表をする。

- ・オンラインで予め実験や実習の内容を説明し,残りの半分の時間で1回の人数を半減させてキャンパス内の圃場,伊勢原の農場で実習。
- < 自学自習での代替、オンラインでの実施、学外実習を学内実習へ振替など> 学内実習
- ・農業実習について、やむを得ず<u>自学自習スタイルを取り、家庭やアパートでもできるような手</u> 法で実施。

例年、稲作関連(田植え・草刈りなど)、畑作物生産、食品加工(ジャムつくりなど)をそれぞれ農地や加工室で行っているが、R2前期は稲や野菜の種、培養土をセットしたものを各人に郵送し、自宅やアパートで牛乳パックに種まきさせて、発芽から収穫まで、自学させ、これらの過程についてレポートを課した。毎週、時間割で設定した時間帯に報告させたり、生育に関する講義を行ったりした。

食品加工は、各人に家庭でできそうな加工品 (パンやジャムなど)のレシピを渡して、製作させ、レポートを課した。

家畜の扱いはできなかったので、農場の風景や牛や豚の飼育状況を映像化し講義時間帯に見せた。

- ・パワーポイントで実習する内容の技術等について資料を提示し、その内容を学生が確認後、レポート提出を課した。
- ・教員が実験しているところを動画に撮り、レポート課題とともに配信。
- ・予め作成した音声付きパワーポイントを学生ポータルにアップし,各自で視聴させレポート提出を課した。作業内容を説明し,結果の例などを提示し,それを題材に考察してレポート提出。
- ・新入生と研究室学生に対する演習は, Zoom を使ってホームルーム的な感じで実施。 学外実習
- ・座学、レポート、外部ビデオの視聴によるポスター作成に振替。加えて、<u>実習の代替となる実</u> 験を2種類ほど別途実施。
 - 資格(教員、人工授精師)関連の時間数に見合う部分は実地での実施を担保。
- ・臨地実習は、<u>約 1/3 が受入れ中止となり、他施設にお願いできなかった一部の学生は、学内で</u> 振替実習を実施。(学会作成の栄養士養成施設向け有料配信プログラムを利用)
- ・病院にあたって確認後、<u>受け入れができない場合の実習については、学内実習で対応</u>。時間数などを削減することなく、学内への振替で対応。内容としては、学内で人形を使った実習および、DVDセットなどを購入し、代替。看護学部は領域ごと対応が異なるが、授業を基本オンデマンドで学ばせて、できる限り実習体制を確保。
- ・農村研修(通常は宿泊を伴う)をオンラインで実施。<u>教員のみが現地に赴き、インタビューを</u> ライブ中継又は事前収録の内容をオンデマンドで視聴。

ゼミ研修(通常は宿泊を伴う)は、<u>現地の協力者にインタビューをライブ中継又は事前収録した動画の視聴(現地協力者が事前収録)</u>で対応。現地協力者のスマホを Zoom でつないでインタビュー。

- ・水族館や動物園とビデオをつないで、職員との意見交換やバッグヤード見学などを実施。
- ・飼育している乳牛,肉牛,豚,鶏の品種の説明と作業内容について,音声付きパワーポイント を視聴させた。
- ・実習系の農家 on-line 授業は、教員がそれぞれ工夫をして実施。

実習先予定であった農家の基礎的な技術に関して教員が紹介した上でセミナー形式による授業 を実施。

<u>農家も on-line で参加</u>する方法をとっている。その授業では、<u>農家の生産物を事前に学生に配布したうえで、その調理方法に関する動画を作成し、実際に学生が調理をして授業の素材</u>としている。また、協定しているスーパーの担当者に当該生産物の流通・販売について on-line で話してもらっている。

・農村・農家調査実習において、学外の方と Microsoft Teams や Zoom などのオンラインで結び、 講演・講義をしてもらうなどで代替。

海外実習

実習先国の大学に在籍している大学OBの教員が、教材を工夫して、on-lineでの実習を実施。

< その他 >

技術職員(日々の家畜(100頭以上)管理を担っている)の感染をいかに減らすかが課題。実習のほとんどの部分を教員だけで担うようにし、学生から職員への感染の確率を低くするように配慮。また、教員と技術職員との接触もできるだけ減らすよう業務体制を見直し。(例:農場内会議を対面から全てメール会議へ変更)



UN ARROMANNESS TO HOROTECTURE BUT THEFT. **用性利用的多个**5个 47. PA . & Maria Street SE BELLERICAS, BANGELLICEEN. #UNIVERSAL STREET Bench Lance BANKSTON FROM CAMPANDAGE, AND SERVICE BURBORRE RESERVED TO SERVE AND SERVED AS ASSESSED AS ASSESSED AS ASSESSED. BYDROUGH THE BROKEHERSHIP STREET, S. P. RECENTED IN COLUMN TO SECURE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PERSON. ARCHARD LINEAR #H421509#2005# EXTENDED TO SERVICE THE ACTION OF THE SERVICE BROWN THURS BROWN CONTRACTOR MANAGEMENT OF THE PROPERTY OF THE P -HELDER CALL PROCESS OF THE ACT OF THE SECOND CASE OF THE PROPERTY OF THE PARTY OF T PROPERTY OF THE PARTY OF THE PARTY. Printer Blicker (Spink) Transfer . The Partition Line String College CONTRACTOR OF STREET, PERMITTY OFFICE STATES OF STATES AND ADDRESS OF THE PERMIT -325



1 授業科目の概要

| 授業科目名 | プロジェクト研究 | 科目コード | 配当年次 | 単位 |
|--------|---------------|-----------|------|----|
| 1文表行日石 | プロジェクド1研究 | JTH56901J | 2年 | 2 |
| 担当教員 | (知 | 期大学部)全教員 | Į | |

(1) 「プロジェクト研究」の概要

本科目はいわゆる「卒論」であり、本学における学修の集大成として位置づけられ、これまでの本学での学修成果を土台に、学生各自が指導教員と設定した研究テーマ(課題)に対して主体的に学修・研究を進め、成果物(成果発表、論文)を完成させる授業科目です。通年で2単位であることから最低限60コマの履修時間が必要であり、週1コマで2年次通年の授業となります。コースや実習専攻により時間割が異なるため、時間割には記載せず、指導教員と日程や時間調整を行って実施します。本科目は定められた履修時間以外の空き時間等も有効に利用して、各自が責任をもって栽培・飼育等を行うことで調査データを取得します。ここが他の科目とプロジェクト研究との大きな違いになります。

研究テーマは、生産現場を想定した問題解決に関連したものであれば、領域、目的、手法は問いません。最終成果物は、別に定める論文の形式で提出します。また、学科全体としてのプロジェクト研究発表会を実施します。

本科目は1年間(実質は11か月)という限られた期間で栽培、飼育等をし、調査研究を進め、 規定(本文10,000字以上 概ねA4版×10~12枚程度)の成果物としてまとめるため、調査研究 中だけでなく、開始前の情報収集や綿密な研究計画等をしっかりと行う必要があります。

実施計画書の作成に際しては、指導教員や実習担当教員と十分相談し、試験場所も含めて調整してください。

また、事前の準備として、文章の書き方や論文のまとめ方を理解しておく必要があります。参考文献を、下記に示しました。

- 1)『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応大学出版会、2002年
- 2)『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書、2009年
- 3)『この1冊できちんと書ける!論文・レポートの基本』石黒圭、日本実業出版会、2013年

(2) 到達目標

これまでの学習成果の総まとめとして、与えられた課題を解決する能力の習得を目標としています。本科目での研究活動を通して、自ら進んで学修・研究することの意義、自ら論文を仕上げた達成感、学問研究と「思い入れ」に対する「探究心」の重要性についての理解等を深めます。

本科目は、本学における学習の集大成です。本学の卒業生として十分な評価を受けるに値する論文を作成してください。

2 受講期間とスケジュール

(1) 受講期間

| 開講時期 | 2021 年 4 月 |
|------|-------------------|
| 受講期間 | 12 か月(実質 11 か月程度) |

(2) スケジュール

| 月 | 2~3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|------------------|---|------------|--------|----|------|-----|----|-----|-----|----|---------|---------------------|-------------------|
| 年間ス ケジュ ール | ▼ - マ設定 ▼ 指導教員決定 ^私 | ▼ 研究計画第 | · 定 | 栽培 | 語飼育等 | 等・調 | 査・ | データ | 整理・ | まと | め、表表派とは | → 発表: 京稿 切 | ◆◆ 論文提出 ※ 切 |

3 研究活動について

(1) 研究テーマ

「プロジェクト研究」は、農林業の生産現場におけるリーダーとしての資質を身に付けるため、 現状の課題をみつけ、それを解決し、説明するという、一連の活動を通して、課題解決能力を身 に付けるものです。

1年次の圃場実習等の学修を通して得た知識・技術・経験をもとに、取り組みたいテーマを考えます。短大では、20名の教員が分担して学生の指導にあたります。それぞれの教員の専門分野及び各教員が学生に勧めたいテーマを、5指導教員一覧(表2、別添)に示します。

(2) テーマと指導教員の決定

基本的には、学生自らがテーマを考えます。担任(実習担任)とテーマについて相談しながら、テーマの守備範囲にある指導教員が指導します。また、テーマを設定するにあたり、その周辺について既存の知見を知っておく必要があります。過去の研究成果等を実習担当教員や指導教員の指導を受けながら調べ、自分の研究テーマを決めることが重要です。ただし、本学の教育内容と大きく異なったテーマは実施できません。また、指導教員については、テーマが教員の専門分野である限りにおいては、極力、学生の希望を優先しますが、一部の教員への過度な集中やテーマの内容により調整する必要があるなど、学生の希望に添えない場合があります。

(3) 研究計画の作成

テーマが決定したら、研究の具体的な実施計画を作成します。指導教員に相談しながら、圃場試験の規模、調査方法を明確にします。また、学生は実習担当教員にも計画書を提出し、圃場の利用や管理方法等を相談する必要があります。研究計画を作成するときには、当然、具体的な試験規模や圃場マップの設計も必要となります。このとき、論文や発表会にて最終的にどのような図表を示していくのか等を想定して研究計画を設計することが重要です。

(4) 研究の実施

コースや実習専攻、あるいはテーマにより、実施の時期、方法は様々です。指導教員や実習教員と十分相談しながら進めます。

4 成果の発表と評価

「プロジェクト研究」の単位は、後述する 取り組み姿勢、 発表審査、 論文審査によって評価します。

(1) 発表会

発表会は令和4年2月中旬(2/16、17、22)を予定し、学科全体で実施します。発表会は別に定める規程により実施し、学科長から指名された短大教員は規程に基づき個々の評価をします。

<発表会の進め方>

- 1) 発表時間は10分とし、質疑応答時間を5分とする。
- 2) 発表はPowerPointで行う。
- 3) 目的、材料および方法、結果、考察の順序で、論文の構成に沿ってプレゼンする。
- 4) 発表会にはプレゼンの他、発表要旨(A4版両面1枚、図表含む)を作成し配布する。

(2) 論文

論文は令和4年2月末を提出が切とします。指導教員は論文審査をします。別に定める規定により評価します。

<プロジェクト研究論文作成要領>

- 1)用紙はA4判とし、1頁当たり字数は1行40字、30行とする。
- 2)上下余白25mm、左右余白25mm、フォントサイズ明朝体10.5 ptとする。
- 3) 頁番号は下部中央に記載する。
- 4)作成要領は園芸学会の「園芸学研究」に準拠する。
- 5)原則としてWordを利用し、プリントアウトとする。
- 6)完成頁数は、表紙・目次を除いて10頁(含図表等)以上を目安とする。
- 7)表紙には、提出年度、静岡県農林環境専門職大学短期大学部卒業論文、テーマ、学科・コース名、学籍番号、氏名、指導教員名を記入する。
- 8)提出の際、「発表要旨」もいっしょに綴じこむ。

<評価基準等>

- (1) 評価の視点は、本学部の教育研究の目的と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の の能力とする。
 - (修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。)
- (2) プロジェクト研究では、共同による作成を認めない。なお、同一の研究目的・対象・方法による共同研究の場合は、学生各自が独自のテーマを設定し、重複しない内容にしなければならない。
- (3) プロジェクト研究の評価基準は、表1(別表1)及び以下のとおりとする。
 - 1) 取り組み姿勢(配分30点)。

プロジェクト研究に供する60コマ分の日程・時間及び研究状況等を指導教員と連絡調整し、逐次指導を仰ぐなど、自発的・計画的にプロジェクト研究に取り組んでいるか。

2) 発表評価(配分30点)。

発表時間、発表態度、発表方法、発表内容、質疑応答は良いか。

3) 論文評価(配分40点)。

テーマの設定が適切に行われているか、目的・材料及び方法が適切に明示されているか、 先行研究の検討が十分に行われているか、引用や注記が適切に行われているか、プロジェクト研究論文作成要領を満たしているか、論証の過程や研究結果(図表含む)が明快 で論理性が認められるか、要旨の内容が適切であるか。

表 1 プロジェクト研究の評価基準

| | | | 評価基準 | | | ☆/布 |
|--|--|--|--|---|--|-----------------|
| 評価指標 | 期待してい る以上 (5) | 十分に満足 できる (4) | やや努力を 要する (3) | 努力を要 する (2) | 相当の努力 を要する (1) | 評価 比率 (%) |
| (取り組み姿勢) プロジェクト研 究の意義を理解し、問題解 決能力を高め るために自発 的・計画的に 取り組むこと ができる。 | プロジェクト研究の意義を十分理解し、自発的・計画的及び積極的にしっかり取り組むことができる。 | プロジェクト研究の意義を理解し、自発的・計画的に取り組むことができる。 | プロジェクト研究の意義を理解し、指導を得て概ね自発的・計画的に取り組むことができる。 | プロジェクト研究の意義を理解できるが、指導を得ても自発的・計画的に取り組むことができない。 | プロジェクト研究 の意義が理解で きず、指導を得 ても自発的・計 画的に取り組む ことができない。 | 30 |
| (発表評価) プレゼンテー ションの手法 を理解し、実 行できる。 | プレゼンテーション の手法を理解し、 作成・発表および 質疑応答・議論す ることが十分でき る。 | プレゼンテーション の手法を理解し、 作成・発表および 質疑応答すること ができる。 | プレゼンテーショ ンの手法を理解 し、作成・発表 することができ る。 | プレゼンテー ションの手法 を理解する が、ソフトを使 用して明解に 発表すること ができない。 | プレゼンテーショ ンの手法が理解 できず、ソフトを 使用した発表が できない。 | 30 |
| (論文評価) 課題の目的、 材料と方法、 結果及び考 察について、 論理的に成果 をとりまとめる ことができる。 | テーマの設定、目的、方法、図表、 結果及び考察をしっかり明示し、論 理的にまとめることができる。論文としての価値が高い。 | テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察を明示し、論理的にまとめることができる。 | テーマの設定、 目的、方法、図 表、結果及び考 察を明示し、ま とめることができ る。 | 目的、方法、 図表、結果及 び考察を明示 することができ るが、成果を まとめることが できない。 | 目的、方法、結果、考察が明示できず、成果を まとめることができない。 | 40 |

<評点等>

- (1) 各評価指標の結果を総合してS(100~90点)、A(89~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59点以下)の評定をもって判定し、S、A、B、C、を合格とする。
- (2) 届出手続き、期間などの条件を満たさない場合は、不合格とする。
- (3) 他人の論文や作品の無断使用が認められた場合は、不合格とする。
- (4) 指導教員は、プロジェクト研究の評価を採点提出締切日まで提出しなければならない。
- (5) 指導教員が認めた場合、審査の途中で、学生に対して修正を求めることができるものとするが、採点提出締切日は遵守しなければならない。

なお、学生は、プロジェクト研究の開始時に「プロジェクト研究ルーブリック」(別表 1)を理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックする。

<表彰>

- (1) 発表評価等に基づき、優秀賞を教務委員会で選考し、教授会に提案し決定する。
- (2) 総数で、6名まで表彰できるものとする(最優秀賞1名、優秀賞5名)。
- (3) 最優秀賞と優秀賞には、賞状と副賞(図書カード等)を贈呈する。
- (4) 表彰は、卒業式に行うものとする。

プロジェクト研究 ルーブリック

学籍番号

(学生)氏名

記入日(学生)

(教員)氏名

記入日(教員)

学生はプロジェクト研究の開始時にルーブリックを理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。 指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックするために用いる。

| | | | | 評価 | | | | | |
|------|-----------------------|--|--|--|--|---|------|----------|-----------|
| 区分 | 評価項目 | 期待している以上 (5) | 十分に満足できる (4) | やや努力を要する (3) | 努力を要する (2) | 相当の努力を要する (1) | 自己評価 | 教員 評価 | 評価 (点) |
| | コミュニケーショ ン (10) | 教員や学生間で常に気持ちの良い挨拶ができ、 教員との報告・連絡・相談 を恒常的に行っている。 | 教員や学生間で気持ちの良い挨拶ができ、教員との報告・連絡・相談をよく行っている。 | 教員や学生間で挨拶ができ、教員との報告・連絡・相談を行うことができる。 | 教員や学生間と挨拶を し、教員との報告・連絡・ 相談を行うよう努力すべ きである。 | 教員や学生間と挨拶ができず、教員との報告・連絡・ 相談が行えない。 | | | |
| 取組 | 活動 (10) | 活動日・時間を守りながら、集中して計画的に取り組んでいる。 | 活動日・時間を守りなが ら、よく取り組んでいる。 | 活動日・時間を守りなが ら、取り組んでいる。 | 活動日・時間を守ってい ないことが時々ある。 | 活動日・時間を守っていない。 | | | 30 |
| | ディスカッション (10) | 指導教員と有意義な議論 をいつも行うことができ る。 | 指導教員との議論をよく 行える。 | 指導教員との議論を時々 行える。 | 指導教員と議論を適切に 行えない場合がある。 | 指導教員と議論することが できない。 | | | |
| | 話し方 (5) | 十分に明瞭な言葉を使って丁寧に説明しながら、 熱意が伝わるなどのアビールがある。 | ある程度明瞭な言葉を使い、丁寧に説明してい る。 | 一部に不明瞭な説明が ある / もう少し丁寧に説 明する必要がある。 | 説明が不明瞭である/ 説明の仕方に改善の余 地が大きい。 | 説明が不明瞭である/説 明の仕方を理解していな い。 | | | |
| | スライド (5) | 提示するデータや文字を 注意深く選択し、ポィント が大変わかりやすい。 | 提示するデータや文字が 適切で、ポィントを理解で きる。 | 提示するデータや文字が おおよそ適切で、ポィント をある程度理解できる。 | 一部のデータや文字を見 直して、ポィントが理解で きるように改善する必要 がある。 | 提示するデータや文字を全体的に見直して、ポィントが理解できるようにする必要がある。 | | | |
| 発表 | 時間 (5) | 指定された時間に合わせて、発表時間を柔軟に調整できている。 | 指定された時間で発表を 終えている。 | おおよそ指定された時間 を守ろうとしているが、若 干ずれている。 | 指定された時間を守るために、スライド量の調整 や発表練習が必要 | 指定された時間が全〈守ら れていない。 | | | 30 |
| 7010 | 成果の提示 (5) | 研究の成果を十分に説 明し、その価値を良 < ア ピールしている。 | 研究の成果と価値をよく 説明できている。 | 研究の成果と価値をおお よそ説明できている。 | 研究の成果と価値の説 明に不十分な部分があ る。 | 研究の成果と価値の説明 の仕方ができてない。 | | | |
| | 論理性と客観性 (5) | 発表のテーマと流れが明確である。説明を論理的に展開し、説得力がある。 | 発表のテーマと流れを把握でき、論理的な説明を 行っている。 | 発表のテーマと流れは把握できる。説明が論理的になるように若干工夫が必要である。 | 発表のテーマを明確にする必要がある。説明が論理的になるように修正がが必要である。 | 発表のテーマが不明確 / 説明の論理性ができてい ない。 | | | |
| | 質疑応答 (5) | 質問内容を理解し、適切 な回答と議論が十分にで きる。 | 質問内容を理解し、適切 な回答ができる。 | 質問内容を理解し、回答 をすることができる。 | 質問内容は理解できるが、回答内容が不十分である。 | 質問内容を理解できない/ 回答できない。 | | | |
| | 誤字·脱字 (5) | 十分に良〈推敲されてい て、たいへん読みやすい 文章である。 | 推敲されていて、読みや すい文章である。 | 誤字・脱字はないが、一 部に修正したほうが良い 字句がある。 | 誤字・脱字があり、著者 による推敲が必要であ る。 | 誤字・脱字がたいへん多く、著者による大幅な推敲 が必要である。 | | | |
| | 要約 (5) | 背景・目的・結果・結論を 全て含み概要を十分理解 できる。 | 背景・目的・結果・結論を 全て含み全体像を把握 できる。 | 背景・目的・結果・結論を 全て含むが全体像が若 干把握できない。 | 背景・目的・結果・結論の いずれかが欠けている。 | 要約が無い/「背景と目的」や「結論」と同じ文章である。 | | | |
| | 背景と目的 (5) | 背景/目的を参考文献を 挙げながら、合理的にわ かりやす〈説明している。 | 背景/目的の説明を参考 文献を挙げながら、説明 している。 | 背景/目的の説明を参考 文献を挙げながら、ある 程度行っている。 | 背景/目的の説明が不十 分である。参考文献を参 照していない。 | 背景 / 目的の記述が無い。 | | | |
| | 研究手法 (5) | 研究の手法をわかりやす 〈記述し、目的達成のた めの道筋が明らかになっ ている。 | 研究の手法をわかりやす 〈記述し、全体像と詳細 まで示している。 | 研究の手法を記述し、全 体像と詳細まで示してい る。 | 研究の手法の記述が不 十分であり、全体像/詳 細が不明である。 | 研究の手法の説明が無い。 | | | |
| 論文 | 図表と結果 (5) | 読者が理解しやすいよう に工夫され、本文で十分 に説明している。 | | | 表現・体裁に問題がある。本文の説明が不十分である。 | 図表に誤りがある。 | | | 40 |
| | データの考察 (5) | データに対する深い考察 を行い、文献を引用して 発展的に議論し、「目的」 を十分達成している。 | データに対する考察を行い、文献を引用して議論し、「目的」をある程度達成している。 | データに対する考察を行い、「目的」をある程度達成している。 | | データに対する考察が無い。 | | | |
| | 結論と今後の課 題 (5) | 得られたことを漏れなく良くまとめ、「目的」に対応した結果を発展的に述べている。 | 得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した 結果をよく示している。 | 得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した 結果を示している。 | 得られたことを全てまとめていない/「目的」に対応した結果になっていない。 | 結論が記述されていない。 | | | |
| | 引用文献 (5) | 論文の論旨を組み立てる ために十分な量の参考文 献を挙げて適切に参照し ている。 | | 参考文献の体裁は正し 〈、本文での参照方法は 適切である。 | 参考文献の体裁や、本文・図表での参照方法が 不十分である。 | 参考文献が不足している。 本文・図表で参照していない。 | | | |

表2 5 指導教員一覧

| | 30 XXI D. H. | - | • | | |
|----|--------------|---------------------|-----------------------|--------------------------------|------------|
| 2 | 職名 氏名 | 専門分野 | キーワード | 勧めたいテーマ | 備考(研究場所等) |
| - | 教授 竹内 隆 | イチゴ栽培(イチ ゴの基本技術) | イチゴ、栽培、品種 | イチゴ特性の品種間差異 | 学内ハウス |
| 2 | 教授 竹内 隆 | イチゴ栽培(イチ ゴの基本技術) | イチゴ、栽培、養水分管理 | イチゴ定植後の養水分管理が成育と初期収量に及 ぼす影響 | 学内ハウス |
| က | 教授 竹内隆 | イチゴ栽培(あた らしい技術) | イチゴ、種子、特性 | 種子繁殖性イチゴの栽培特性 | 学内ハウス |
| 4 | 教授 竹内 隆 | イチゴ栽培(あた らしい技術) | イチゴ、種子、作業性 | 種子繁殖性イチゴの栽培作業性 | 学内ハウス |
| 5 | 教授 竹内 隆 | イチゴ栽培(技術習得法) | イチゴ、技術習得、動画 | イチゴ栽培技術の動画等可視化による教育的効果 | 学内ハウス |
| 9 | 教授 竹内 隆 | イチゴ栽培(経営) | イチゴ、経営、モデル | イチゴ栽培の経営調査と発展モデル | 学内ハウス |
| 7 | 教授 片山信也 | 畜産、乳製品加 エ | ヨーグルト 山羊 | ハードタイプの山羊乳ヨーグルト調製の研究 | 校内実験室 |
| œ | 教授 片山信也 | 畜産環境、臭気 制御 | 海洋微生物 脱臭 | 海洋微生物の悪臭物質分解特性調査 | 校内実験室 |
| 6 | 教授 片山信也 | 畜産、草地造成 | 景観形成 グランドカバープ ランツ | 工場内管理困難用地の景観形成(調整中) | 学外(磐田市下野部) |
| 0 | 教授 小林信一 | 畜産経営学 | 牛乳・ヨーグルト、学校牛乳、 | 地元産乳製品のマーケティング | 富士宮市 |
| = | 教授 小林信一 | 畜産経営学 | 地鶏、農福連携、 | 駿河シャモの生産から販売について | 静岡県内 |
| 12 | 教授 小林信一 | 畜産経営学 | ヤギ、ヒツジ、除草、乳製品、肉 | 緬山羊の活用と課題 | 静岡県内 |
| 13 | 教授 小林信一 | 野生動物管理• 利用論 | 鳥獣害、下層植生、牧草、生 物多様性 | 鹿など野生鳥獣害の実態調査 | 富士宮市など |
| 14 | 教授 小林信一 | 野生動物管理• 利用論 | 鹿肉、鹿皮、角、エコツアー | 鹿などの資源利用について | 富士宮市など |
| 15 | 教授 稲葉善太郎 | 花き育種 | マーガレット | マーガレットの交配組合せと形質の遺伝性 | 学内D2温室 |
| 16 | 教授 稲葉善太郎 | 花き栽培 | マーガレット、冷房、LED、植物調節剤 | 夏季の環境条件とマーガレット生育の品種間差 | 学内、C6、D2温室 |

| 9 | | 1 | 3 | | ;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;; |
|----|----------|----------------|------------------------|--|---|
| 2 | 職名 氏名 | 專門分野 | キーワード | 勧めたいテーマ | 備考(研究場所等) |
| 17 | 教授 稲葉善太郎 | 花き栽培 | カーネーション、キンギョン ウ、LED | 各種LEDを利用した生育制御技術の開発 | 学内、C5、D6温室 |
| 18 | 教授 稲葉善太郎 | 花き栽培 | 鉢物用花き、育苗、冷房、 LED | 夏秋期の高温回避、補光による育苗技術の開発 | 学内、C6、D2温室 |
| 19 | 教授 稲葉善太郎 | 花き栽培 | 鉢物用花き、観葉植物、鑑賞 | 室内緑化における鉢物用花きの鑑賞期間 | 学内温室および校舎 |
| 20 | 教授 近藤晃 | 林業用種苗の育 成技術 | 育苗、スギ、コンテナ苗、 | スギコンテナ苗の育苗方法 | 植栽効率や活着率向上等の利点があるコンテナ苗の育苗技術の改良研究を行う(学内圃場)。 |
| 21 | 教授 近藤晃 | 林業用種苗の育 成技術 | 育苗、早生樹、コンテナ苗、 | 早生樹コンテナ苗の育苗方法 | 短伐期で収穫可能な早生樹コンテナ苗の育苗技術を研究する(学内圃場)。 |
| 22 | 教授 近藤晃 | 植栽木の育成技 術 | 育林、ツリーシェルター、樹木 形態 | ツリーシェルターが樹木の初期成長や形態形成に及 ぼす影響 | ン力等の探食対策に用いるツリーシェルターが初期成長や形態(幹、枝)に及ぼす影響を研究する(学内圃場)。 |
| 23 | 教授 杉山泰之 | 果樹 | 果樹園、栄養分析、土壌分析 | 大学内の果樹園における樹体栄養及び土壌診断 | 学内、果樹研究センター 大学内果樹園の土壌と葉を採取・ 分析し、栄養診断を行います |
| 24 | 教授 杉山泰之 | 果樹 | みかん、半樹交互結実、着花 特性 | ミカンの半樹交互結実栽培における着花特性につい て | 学内、静岡市内現地ほ場 半樹交互結実栽培のみかんにつ いて、着花量や発育枝の調査をし、着果特性を解明します。 |
| 25 | 教授 杉山泰之 | 果樹 | はるみ、果皮障害 | はるみの果皮障害発生原因の解明 | 学内、静岡市内現地ほ場 はるみの果皮障害の発生原因と それを防ぐ方法を検討します。 |
| 26 | 教授 杉山泰之 | GAP | GAP、栽培 | 農林環境専門職大学の栽培でGAP認証を取得する ために行うことについて | 学内 GAPの基準で学内のほ場や作業場等の改善提案をします |
| 27 | 教授 杉山泰之 | GAP | GAP、実家 | 実家(農園)でGAP認証を取得するために行うことに ついて | 実家で農業を経営している学生を対象とします。GAPの基準でほ場や作業場の改善提案をします。 |
| 28 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、栽培管理 | 飽差がメロンの生育に及ぼす影響 | |
| 29 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、害虫防除 | メロン防除における薬剤抵抗性の確認 | |
| 30 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、害虫防除 | 天敵利用による病害虫防除 | |
| 31 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、栽培管理 | 簡易床形状(平床)によるメロン栽培 | |
| 32 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、生理 | 生育ステージによる光合成量の測定 | |
| 33 | 准教授 中根健 | 野菜栽培 | 教育、AI | AIを取り入れた栽培学習システムの開発 | |
| | | | | | |

| 2 | 職外不外 | 車門分野 | # | 集物かたいモーマ | 備老(研究場所等) |
|----|----------|-----------------|------------------------|---------------------------------------|---|
| 2 | | 41.12.14 | - | , , , , , , , , , , , , , , , , , , , | イナーニのでしていて、ヨニ |
| 34 | 准教授 中根健 | 野菜栽培 | 申申 | 紙ポットを利用した野菜育苗の検討 | |
| 35 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、香り | 県育成高香気系品種の品種特性調査 | |
| 36 | 准教授 中根健 | メロン栽培 | メロン、香り | 県育成高香気系品種の栽培法の検討 | |
| 37 | 准教授 中根健 | (野菜栽培) | (生育診断、ドローン) | (ドローンによる野菜の生育診断) | |
| 8 | 准教授 中野敬之 | 茶栽培 | 遮光ネット種類(4種類)、抹 茶 | 遮光ネットの種類別に抹茶原料(てん茶)の収量と品質 | 磐田の茶園を使用。4月上中旬に被覆、4月下旬~5月上旬に収穫。 秋季に茶研セでクロロフィル濃度検定。 |
| 39 | 准教授 中野敬之 | 茶栽培 | 遮光ネット種類(2種類)、抹 茶、品種 | 遮光ネットの種類と品種の組み合わせ別に抹茶原料(てん茶)の収量と品質 | 磐田の茶園を使用。4月上中旬に被覆、4月下旬~5月上旬に収穫。 秋季に茶研セでクロロフィル濃度検定。 |
| 9 | 准教授 中野敬之 | 茶。栽培 | 休眠、品種 | 休眠特性と品種間差異 | 磐田の茶園を使用。10~12月の休眠に入る時期の休眠程度について、品種間差を調査する。 |
| 4 | 准教授 中野敬之 | 茶栽培 | 中切り、再生 | 中切り後の各種ホルモン散布と再生芽の生育 | 磐田の茶園を使用。一番茶収穫後に中切りした茶園において、オーキンンやサイトカイニンを散布して、再生芽の生育を調査する。 |
| 42 | 准教授 中野敬之 | 茶栽培 | 近赤外分光法、品種 | 近赤外分光法による品種の適応 | 磐田の茶園を使用。一番茶で枠槽み調査を行い。風軟後、燃焼法 による窒素分析と近赤外法による窒素分析を行い、両者の関係を 比較する。 |
| 43 | 准教授 中野敬之 | 茶。栽培 | 光合成、品種 | 光合成の品種間差異 | 磐田の茶園を使用。光合成測定装置を用いて、品種別の特性を把握する。 |
| 4 | 准教授 中野敬之 | 茶栽培 | 光合成、栽培方法 | 栽培方法と光合成 | 磐田の茶園を使用。光合成測定装置を用いて、栽培方法による変化特性を把握する。 |
| 45 | 准教授 横田茂永 | 農業経営学 農 業経済学 | 産消提携、流通チャネルの多 角化 | 有機食品流通の課題と今後の展望について | 静岡県内他 |
| 46 | 准教授 横田茂永 | 農業経営学 農 業経済学 | 農業法人、非農家の新規参 入 | 新規就農の支援体制の課題と今後の展望について | 静岡県内他 |
| 47 | 准教授 横田茂永 | 農業経営学 農 業経済学 | 農地の集積•集約化、販路の 確保 | 一般企業の農業参入の課題と今後の展望について | 静岡県内他 |
| 84 | 准教授 鵜飼一博 | 森林計画/経営 | 経営計画、森林調査 | 掛川市倉真・西郷地区における森林経営計画の作 成に関すること | 歩二 市 |
| 49 | 准教授 鵜飼一博 | 森林計画/経営 | 間伐、森林調査、林内照度 | 間伐実施個所の評価に関すること | 都田演習林 現地調査 (照度等) |
| 20 | 准教授 鵜飼一博 | 森林計画/経営 | 十十ンジセ、 5時 年 | 防鹿柵設置個所の巡視に関すること | 県内 現地調査 |
| | | | | | |

| 2 | 職名 氏名 | 専門分野 | キーワード | 勧めたいテーマ | 備考(研究場所等) |
|----|----------|-------------|-------------------------------|---|---|
| 51 | 准教授 鵜飼一博 | 森林計画/経営 | 森林認証 | 森林認証取得後における林業製材業の変化 | 県内 アンケート調査等 |
| 52 | 准教授 鵜飼一博 | 特用林産 | しいたけ | しいたけの原木・菌床栽培に関すること | 大学構内ほか |
| 53 | 准教授 鵜飼一博 | 樹木坪 食品科坪 | 栃の実 | 析の実のアク抜き作業について | 加工室、林業実習室 池ケ谷講師と共同指導 |
| 25 | 准教授 鵜飼一博 | 樹木坪 食品科坪 | かつモモ | ヤマモモの果実の色と味の関係について | 加工室池ケ谷講師と共同指導 |
| 55 | 准教授 渡邉貴之 | 畜産、繁殖 | 牛、超音波画像装置、牛の卵 巣動態 | カラードプラによる黄体血流量を利用した早期妊娠 診断および受胚牛の選定方法の確立 | 畜産技術研究所または近隣農家(調整中) |
| 26 | 准教授 渡邉貴之 | 畜産、繁殖、栄養 | 牛、超音波画像装置、血液生 化学検查 | 牛黄体の血流量と栄養状態の関連性調査 | 畜産技術研究所または近隣農家(調整中) |
| 22 | 准教授 渡邉貴之 | 畜産、繁殖、栄養 | 黒毛和種繁殖牛、血液生化学検 査、探卵成績、飼料設計 | 探卵前後に血液を分析し、探卵成績に関する要因を 調査する | 备産技術研究所 |
| 28 | 准教授 渡邉貴之 | 畜産、繁殖、栄養 | 黒毛和種繁殖牛、超音波画 像装置、血液生化学検査 | 黒毛和種繁殖牛の分娩前後の栄養状態と子宮回復 の関係を調査する | 畜 産技術研究 所 |
| 29 | 准教授 渡邉貴之 | 畜産、繁殖 | 牛、体外受精 | 無血清培地を用いた体外受精培養系の確立 | 大学実験室。培養器等の備品導入後に検討。卵巣採材につ いて調整中(未定)。R3は培養系の確立までの可能性大。 |
| 09 | 講師 五十右薫 | 花き栽培 | トルコギキョウ、育苗 | トルコギキョウの育苗方法と定植後の生育 | 学内D6ハウス |
| 61 | 講師 五十右黨 | 花き栽培 | トルコギキョウ、二度切り栽培、植え替え栽培 | トルコギキョウの二度切り栽培と植え替え栽培の違いによる生育・品質・収量比較 | 学内D6ハウス |
| 62 | 講師 五十右黨 | 花き栽培 | トルコギキョウ、二度切り栽培、仕立本数 | トルコギキョウの二度切り栽培における適仕立本数の検討 | 学内D6ハウス |
| 63 | 講師 五十右薫 | 花き栽培 | ガーベラ、生育初期管理 | ガーベラの定植後の株管理方法の違いと生育 | 学内D6ハウス |
| 64 | 講師 五十右薫 | 花き栽培 | 切花、日持ち向上 | 切花類の日持ち性向上対策 | 学内現場教室 |
| 65 | 講師 五十右黨 | 花き栽培 | 切花、日持ち向上 | 切花類の栽培条件と切花品質との関係 | 学内D6ハウス |
| 99 | 講師 五十右薫 | 花き栽培 | 切花、連続出荷 | 切花類のは種・定植時期と開花時期・切花品質との 関係 | 学内D6ハウス |
| 29 | 講師 増田壽彦 | 野菜分野 | 野菜・スイートコーン | スイートコーンの栽培技術と品種特性 | 校内圃場 |
| - | | | | | |

| 9 | 期 | 車門公職 | # I I | をおかた! ハモーフ | (|
|----------|---------|----------------|-----------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| 2 | | 14 17 F | ` | | は、ひくめつた。如うな |
| 89 | 講師 増田壽彦 | 野菜分野 | 野菜・スイカ | スイカの栽培技術と品種特性 | 校內圃場 |
| 69 | 講師 増田壽彦 | 野菜分野 | 野菜・砂地土壌 | 砂地野菜栽培の特徴と導入作物 | 県内現地 |
| | 講師 青山東一 | 畜産 加工販売 | 養豚 食肉加工 | ハム等加工に取り組む農家直営の加工施設の実態 と可能性の検証 | 販売所・学内 |
| 7 | 講師 青山東一 | 畜産 加工販売 | 養鶏 食肉加工 | 鶏肉等の加工に取り組む農家直営の加工施設の実 態と可能性の検証 | 販売所・学内 |
| 72 | 講師 青山東一 | 畜産 販売販売 | 養鶏 鶏卵販売 | 鶏卵等の販売に取り組む農家直営の施設の実態と 可能性の検証 | 販売所・学内 |
| 73 | 講師 吉村親 | 食農教育 | 食農体験、教育効果 | 食農体験の参加者、指導者及び支援者等の学習過程と意識変容 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 74 | 講師 吉村親 | 農村の地域づくり | 食農体験、都市農村交流、交 流人口、関係人口、移住-定住 | 食農体験の実践が農村地域に及ぼす効果 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 75 | 講師 吉村親 | 農村の地域づくり | 農家民宿、都市農村交流、グ リーン・ツーリズム、教育旅行 | 農家民宿が農村地域に及ぼす効果 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 9/ | 講師 吉村親 | 農村の地域づくり | 異業種連携、協働、都市農村 交流、活動の担い手 | 農村の地域づくりにおける中間支援組織の役割と活動の継続性 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 11 | 講師 吉村親 | 新規就農 | 新規参入、就農相談、移住·定住、 就農前研修、農地、就農支援 | 新規参入による新規就農者の就農地選定から就農 及び定着過程 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 78 | 講師 吉村親 | 新規就農 | 雇用就農、独立就農、農地、 就農支援 | 雇用就農先から独立して新規就農するまでの過程 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 79 | 講師 吉村親 | 農業と福祉 | 農福連携、障がい者雇用、農 業経営体、農業関連団体 | 農福連携が農業経営体(または、農業関連団体)に 及ぼす効果 | 学外(フィールドワーク)、教員研究室 |
| 8 | 講師 坂口良介 | トマトの養液栽培 | トマト 養液栽培 高糖度 生理障害 培地 | 高糖度トマト養液栽培における培地の違いが生理障 害に及ぼす影響 | 校内圃場(C1温室) |
| <u>8</u> | 講師 坂口良介 | トマトの養液栽培 | トマト 養液栽培 高糖度トマト 生育診断 | 高糖度トマト養液栽培における生育診断手法の検討 | 校内圃場(C1温室) |
| 82 | 講師 坂口良介 | トマトの養液栽培 | トマト 無培地循環養液栽培 仕立て | トマト無培地循環養液栽培における仕立て法の検討 | 校内圃場(D3温室) |
| 83 | 講師 坂口良介 | トマトの隔離土耕 栽培 | トマト 隔離土耕 夏期 高温対策 | 夏期高温期における隔離土耕トマトの栽培手法の検 討 | 校内圃場(D3温室) |
| | 講師 坂口良介 | トマトの隔離土耕 栽培 | トマト 隔離土耕 肥料 | 夏期高温期における隔離土耕トマトの施肥法の検討 | 校内圃場(D3温室) |
| | | | | | |

| 2 | 職名 氏名 | 專門分野 | オーワード | 勧めたいテーマ | 備考(研究場所等) |
|-----|---------|----------------|--------------------------|---------------------------------------|----------------------------|
| 82 | 講師 坂口良介 | トマトの隔離土耕 栽培 | トマト 隔離土耕 誘引 | 隔離土耕トマト栽培における効率的誘引法の検討 | 校内圃場(D3温室) |
| 98 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | 早生ミカン、ジベレリン | プロヒドロジャスモン加用ジベレリンを利用した早生 温州の完熟栽培 | 果樹仔場-現場教室 |
| 87 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | ミカン苗木、LED | 青色LED光によるウンシュウミカン幼木の早期育成 | 果樹店場・現場教室 |
| 88 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | ナシ、流通 | 収穫後ニホンナシの品質鮮度保持技術の開発 | 果樹仔場・現場教室 |
| 68 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | 柚、果皮色 | ジベレリンを利用した花柚の熟期調整と鮮度保持 | 果樹店場,現場教室 |
| 06 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | シークワーサー、機能性 | シークワーサーに含まれる機能性成分の効率的利用の検証 | 果樹店場・現場教室 |
| 91 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | キンカン、収量 | 摘果剤(ナフタレン酢酸)によるキンカンの大玉果生産 | 果樹仔場・現場教室 |
| 92 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | キウイフルーツ、追熟 | レインボーレッドの長期貯蔵技術の開発 | 果樹店場,現場教室 |
| 93 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | カンキツ、病害虫防除 | マルチ被覆とカルシウム剤(ホワイトコート)の組み合わせによる病害虫被害軽減 | 果樹仔場・現場教室 |
| 96 | 講師 口家一哲 | 果樹栽培 | 草生栽培、土壌管理 | 果樹園におけるナギナタガヤ草生(下草)栽培の多面的効果 | 果樹仔場・現場教室 |
| 95 | 講師 山家一哲 | 果樹栽培 | カンキツ、気候変動 | 気象データを利用した青島温州の隔年結果性(不作)の要因解析 | 果樹仔場・現場教室 |
| 96 | 講師 星川健史 | 林業経営 | 無人航空機、ドローン、リモー トセンシング | 立木調査への無人航空機の活用に関する研究 | 大学演習林 |
| 97 | 講師 星川健史 | 林業経営 | 森林計測、GIS、施業プラン | 効果的な施業プランに関する研究 | 大学演習林 |
| 86 | 講師 星川健史 | 森林計画 | 衛星、リモートセンシング | 衛星画像を用いた広域森林計測に関する研究 | 大学演習林 |
| 66 | 講師 星川健史 | 森林保護 | 無人航空機、ドローン、リモー トセンシング | 森林病害虫の調査への無人航空機の活用に関する 研究 | 海岸防災林(磐田市他) 広葉樹林(御殿場市他) |
| | 講師 星川健史 | 林業労働 | 言語化、技能、チェーンソー | 林業技能の習得効率化のための技能の言語化に関 する研究 | 構內 |
| 101 | 講師 池ケ谷篤 | 食品加工学 | 香り、水蒸気蒸留、精油 | 静岡県産農産物からの香りの抽出と利活用 | 加工室 |
| • | | | | | |

| • | | | | | |
|------------|---------|-------|------------------------|-------------------------------------|------------|
| 2 | 職名 氏名 | 専門分野 | キーワード | 勧めたいテーマ | 備考(研究場所等) |
| 102 | 講師 池ケ谷篤 | 食品加工学 | フェイクード(肉・チーズ)、 SDGs | 植物性原料を用いた代替肉、乳製品の開発 | 加工講義室 |
| 103 | 講師 池ヶ谷篤 | 食品加工学 | 糖、ジャム、イチゴ | 原材料として用いる糖の甘味度がイチゴジャムの嗜 好性に与える影響 | 加工講義室 |
| 1 0 | 講師 池ケ谷篤 | 食品加工学 | ジャム、甘み、柑橘 | 柑橘類の果皮の苦みを活かした「甘くない」ジャムの 開発 | 加工講義室 |
| 105 | 講師 池ケ谷篤 | 食品加工学 | 緑茶、フレーバーティー | 静岡県産農産物を活用した新たなフレーバーティー の開発 | 加工講義室 |
| 106 | 講師 池ケ谷篤 | 食品加工学 | 干し芋、加工条件 | 遠州特産干し芋の最適な加工条件の検討 | 加工室 |
| 107 | 講師 池ケ谷篤 | 青果保蔵学 | わさび、長期保蔵 | 食品添加物を利用したわさびの長期保存技術の開発 | 加工室 |
| 108 | 講師 瀬戸隆弘 | 飼料作物 | 秋播き、栄養分析、早期収穫 | 秋播き早期収穫型の麦の収量調査 | 学内圃場、畜産実験室 |
| 109 | 講師 瀬戸隆弘 | 予防獣医療 | 群診療、牛のモニタリング(定期的な観察) | 牛の外貌、乳成分モニタリングによる酪農場の分析 | 協力農場、教員室 |
| 19 | 講師 瀬戸隆弘 | 家畜管理 | 生体情報モニタリング、反 芻、行動量 | 反芻、行動量モニタリングデータからの牛群の分析 | 教員室、協力農場 |

| | Д П, | ンエントリリチ | このこの日舎的 | る指導教員一覧表 | |
|-----|-------------|--------------------|----------------|-----------------------------|--------------|
| コース | 専攻 | 学籍番号 | 氏名 | 指導教員 | 教員室 NO(注) |
| 栽培 | 野菜 | 2021005 | 郁野 勇人 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021006 | 池内 李音 | 増田 壽彦 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021007 | 池田 紅葉 | 中根 健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021008 | 石川 陽菜 | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021010 | 板垣 尚吾 | 横田 茂永 准教授 | A414 |
| 栽培 | 野菜 | 2021012 | 稲尾 未来 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021013 | 今村 風香 | 竹内隆教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021015 | 岩間 薫乃子 | 増田 壽彦 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021016 | 岩本大和 | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021020 | 大石 岳 大澤 ゆう | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜野菜 | 2021022 | 大澤 ゆう 落合 買 | 増田 壽彦 講師 増田 壽彦 講師 | A106 A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021024 | 門勇輝 | | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021027 | 河原﨑 嵩史 | 世代 医 准教授 横田 茂永 准教授 | A414 |
| 栽培 | 野菜 | 2021033 | 北野 瑞紀 | 中根健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021034 | 来原 彰大 | 中根 健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021038 | 小林 夏海 | 池ヶ谷 篤 講師 | A311 |
| 栽培 | 野菜 | 2021042 | 佐々木 美緒 | 竹内隆教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021043 | 佐藤 菜美 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021046 | 白井 初季 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021048 | 杉山 瑞穂 | 増田 壽彦 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021050 | 鈴木 親也 | 中根健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021051 | 鈴木 翼 | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021052 | 鈴木 信快 | 竹内 隆 教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021053 | 鈴木 郁也 | 中根 健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021055 | 芹澤 武 | 竹内 隆 教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021056 | 相馬 修造 | 竹内 隆 教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021059 | 田中 冷奈 | 池ヶ谷 篤 講師 | A311 |
| 栽培 | 野菜 | 2021060 | 佃 爽太郎 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021061 | 中川 武蔵 | 池ヶ谷 篤 講師 | A311 |
| 栽培 | 野菜 | 2021066 | 伴 虎太郎 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021070 | 峯野 大斗 | 中根 健 准教授 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021071 | 室岡 謙利 | 坂口 良介 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021073 | 八木 凱矢 | 竹内 隆 教授 | A308 |
| 栽培 | 野菜 | 2021075 | 米山 天斗 | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021076 | 渡邉 浩基 | 増田 壽彦 講師 | A106 |
| 栽培 | 野菜 | 2021077 | 渡邉 理紗子 | 片山 信也 教授 | A412 |
| 栽培 | 花き | 2021003 | 阿部 嵩憲 | 稲葉 善太郎 教授 | A411 |
| 栽培 | 花き | 2021029 | 河合 心花 | 五十右 薫 講師 | A106 |
| 栽培 | 花き | 2021037 | 小長井 美有 | 五十右 薫 講師 | A106 |
| 栽培 | 花き | 2021039 | 近藤 聖也 | 稲葉 善太郎 教授 | A411 |
| 栽培 | 花き | 2021045 | 澤部 智哉 | 稲葉 善太郎 教授 | A411 |
| 栽培 | 花き | 2021058 | 竹原 千花子 | 稲葉 善太郎 教授 | A411 |
| 栽培 | 花き | 2021065 | 林 香奈 | 五十右 薫 講師 | A106 |
| 栽培 | 花き | 2021072 | 望月 瑠那 | 五十右 薫 講師 | A106 |
| 栽培 | 茶 | 2021004 | 井口 佳晃 | 池ヶ谷 篤 講師 | A311 |
| 栽培 | 茶 | 2021026 | 勝田浩太 | 中野 敬之 准教授 | A311 |
| 栽培 | 茶 | 2021044 | 佐野 楓 | 中野 敬之 准教授 | A311 |
| 栽培 | 茶 | 2021049 | 鈴木 啓介 | 中野 敬之 准教授 | A311 |
| 栽培 | 茶 | 2021062 | 仲田 聖 | 中野 敬之 准教授 | A311 |
| 栽培 | 茶茶 | 2021063 2021064 | 布川 大登 根岸 周平 | <u>池ヶ谷 篤 講師</u> 池ヶ谷 篤 講師 | A311 A311 |
| 栽培 | 果樹 | 2021004 | 淺間 南海 | | A311 |
| 栽培 | 果樹 | 2021002 | 石田 源貴 | 杉山 泰之 教授 | A413 |
| 栽培 | 果樹 | 2021003 | 海野 遊人 | 山家 一哲 講師 | A311 |
| 栽培 | 果樹 | 2021023 | 大城 愛莉 | 山家 一哲 講師 | A311 |
| 栽培 | 果樹 | 2021025 | 落合 祐汰 | 山家 一哲 講師 | A311 |
| 栽培 | 果樹 | 2021028 | 加藤 穂澄 | 吉村 親 講師 | A106 |
| 栽培 | 果樹 | 2021032 | 木田 結菜 | 杉山 泰之 教授 | A413 |
| 栽培 | 果樹 | 2021074 | 吉川 碧 | 山家 一哲 講師 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021011 | 伊藤 太一 | 星川 健史 講師 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021030 | 河合 陽生 | 近藤 晃 教授 | A310 |
| 林業 | 林業 | 2021035 | 桑平 魁耶 | 鵜飼 一博 准教授 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021040 | 坂倉 悠斗 | 星川 健史 講師 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021057 | 高野 璃音 | 鵜飼 一博 准教授 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021067 | 堀江 敬介 | 鵜飼 一博 准教授 | A311 |
| 林業 | 林業 | 2021068 | 増田 豊久 | 星川 健史 講師 | A311 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021001 | 青山 澪 | 片山 信也 教授 | A412 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021014 | 岩田 夏鈴 | 瀬戸 隆弘 講師 | A311 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021036 | 輿水 奈央 | 渡邉 貴之 准教授 | A415 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021041 | 佐々木 希望 | 小林 信一 教授 | A309 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021047 | 杉山 樹輝也 | 小林 信一 教授 | A309 |
| 畜産 | 大家畜 | 2021054 | 鈴木 真依 | 瀬戸 隆弘 講師 | A311 |
| 畜産 | 中小家畜 | 2021017 | 牛丸 茜 | 青山 東一 講師 | A311 |
| 畜産 | 中小家畜 | 2021019 | 江見 知哉 | 青山 東一 講師 | A311 |
| 畜産 | 中小家畜 | 2021021 | 大岩 渡 | 片山 信也 教授 | A412 |
| 畜産 | 中小家畜 | 2021069 | 松本 柚夏 | 片山 信也 教授 | A412 |

(注)R2年度中